

# 施策評価シート

## 基本目標

### 3 人が行き交う 魅力とにぎわいあふれるまち

## 1 施策名

### 3-(1) 地域特性を生かした観光・交流の推進

## 2 施策の概要

- I 観光・コンベンションの振興  
観光客のニーズを踏まえた戦略的な情報発信により、本市への誘客を図るとともに、地域の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘致・受入体制のさらなる充実、イベントの振興や各種コンベンションの誘致などにより観光・コンベンションの振興を図ります。
- II 世界文化遺産やジオパーク等を活用したインバウンド観光の推進  
東アジアや東南アジアを中心に世界を視野に入れた観光プロモーションや受入体制の充実を図るとともに、世界文化遺産やジオパークという世界に誇りうる歴史・文化・自然などの多彩な魅力を生かした、戦略的かつ広域的な取組を推進します。
- III 国際交流の推進  
市民、関係団体などと連携・協働しながら、姉妹友好都市をはじめ、著しい成長を遂げているアジア諸国など多くの国々の都市と多彩な交流を進めるとともに、市民と在住外国人がお互いに認めあい、学びあう国際意識の高揚などを通じ、国際交流を推進します。
- IV スポーツ・ツーリズムの推進  
鹿児島ユナイテッドFCなどのプロスポーツチーム等への活動支援や、鹿児島マラソン等のスポーツイベントの開催など、魅せるスポーツコンテンツづくりを推進します。また、本市のスポーツ振興や魅力の情報発信につながるスポーツキャンプの誘致・受入を推進します。
- V グリーン・ツーリズムの推進  
都市部住民の多様なニーズに応えるとともに、農村地域の活性化を図る方策の一つとして、農村での生活や豊かな自然、食、文化に触れ人々との交流を体験、体感できる取組の充実など、グリーン・ツーリズムのさらなる推進を図ります。

## 3 目標指標

### (1) 実感指標（市民意識アンケート調査）

指標名	総計策定時現況	30年度:実績(A)	30年度:目標(B)	達成率(A/B)	3年度:目標(C)	達成率(A/C)	所管局
①「観光交流都市である」と感じる市民の割合	42.0%	67.0%	52.5%	127.6%	57.0%	117.5%	観光交流局

### (2) 主な指標

指標名	総計策定時現況	30年度:実績(A)	30年度:目標(B)	達成率(A/B)	3年度:目標(C)	達成率(A/C)	所管局
①宿泊観光客数	2,862千人	4,100千人	3,519千人	116.5%	3,800千人	107.9%	観光交流局
②外国人宿泊観光客数	80千人	388千人	234千人	165.8%	300千人	129.3%	観光交流局
③スポーツキャンプ受入数	※9チーム	9チーム	10チーム	90.0%	11チーム	81.8%	観光交流局
④グリーン・ツーリズム登録団体数	32団体	44団体	43団体	102.3%	48団体	91.7%	観光交流局

※28年度実績値

## 4 施策を構成する事務事業の状況

構成する事務事業（単位：千円）	24年度		27年度		元年度	
	事業数	予算額	事業数	予算額	事業数	予算額
I 観光・コンベンションの振興	55	711,047	67	1,531,226	71	3,422,254
II 世界文化遺産やジオパーク等を活用したインバウンド観光の推進（後期で設定）	—	—	—	—	16	283,968
III 国際交流の推進（前期：II）	13	115,706	17	204,341	14	189,078
IV スポーツ・ツーリズムの推進（後期で設定）	—	—	—	—	20	282,463
V グリーン・ツーリズムの推進（前期：III）	14	1,425,159	16	237,556	13	242,980
計	82	2,251,912	100	1,973,123	134	4,420,743

5 関係局による分析

■分析の類型及び施策の達成度基準

- A：十分に達成されている  
実感指標のH30実績が総計策定時現況より上昇し、かつ、各指標のH30目標達成率が概ね90%以上
- B：概ね達成されている  
A以外で、各指標のH30目標達成率が概ね70%以上
- C：あまり達成されていない  
A、Bを除くもの

総務局（観光・コンベンションの振興、世界文化遺産やジオパーク等を活用したインバウンド観光の推進、国際交流の推進）

	分析	理由
施策の達成度	A	<p>(ア) 観光・コンベンションの振興については、平成30年度にシティプロモーション戦略ビジョンを策定し、シティプロモーション推進に向けた方向性や取組の体系化が図られたほか、同ビジョンに基づくシティプロモーション動画やブランドメッセージ・ロゴマーク、情報提供アプリの制作等により、プロモーション活動を展開するコンテンツの整備等が図られた。【R元関連事業1-2-8～10】</p> <p>また、市政報告会や鹿児島県の食材を使ったフェアの開催により、効果的な時期に効果的な場所で首都圏在住者や観光客に本市の多彩な魅力を戦略的に情報発信することができた。【R元関連事業1-2-1,11,21,22,28】</p> <p>(イ) 世界文化遺産やジオパーク等を活用したインバウンド観光の推進については、世界文化遺産の構成資産周辺に案内所を整備し、受入環境の充実を図るとともに、ジオパーク国際ユネスコ会議等での国外ジオパークとのネットワークの構築や情報発信、桜島コンシェルジュセンターの本格運用の開始など、インバウンド観光に資する取組を推進し、主な指標の「②外国人宿泊観光客数」の30年度目標を達成した。【関連事業2-1、2-2】</p> <p>(ウ) 国際交流の推進については、姉妹友好都市をはじめとする多くの国々の都市への青少年や訪問団の派遣・受入を通じて、それぞれの特性に応じた多彩な交流が進められたほか、次代を担う国際性豊かな人材の育成及び本市の国際化の推進に寄与した。</p> <p>また、鹿児島市国際交流財団と連携し、市民主体の幅広い国際交流活動を促進することにより、市民の国際相互理解・国際協力意識の高揚が図られ、多文化共生の地域づくりの推進が図られた。【R元関連事業3-1-1～6,3-2、H24・27関連事業2-1,2-2-1～2,2-3】</p>

	考え方
今後の方向性	<p>(ア) 観光・コンベンションの振興については、シティプロモーション戦略ビジョンに基づき、都市ブランドの確立、戦略的な体験価値の提供と情報拡散の促進等を取組の方向性として掲げ、全市を挙げたシティプロモーションに取り組んでいきたい。【R元関連事業1-2-8～10】</p> <p>また、市政報告会では、新たに音と映像を活用した効果的な演出や交流都市ブースの設置を行う。また、多くの首都圏在住者や観光客が訪れる場所での食のフェアの開催など、戦略的に本市の多彩な魅力を情報発信していきたい。【R元関連事業1-2-1,11,21,22,28】</p> <p>(イ) 東京オリンピック・パラリンピック等で新たに関係が生じる国の大使館や鹿児島ゆかりのホテルなどを関係部署と連携して訪問していくほか、成田国際空港など訪日外国人が多いスポットでの情報発信を通して、さらなる鹿児島県の認知度向上を図っていきたい。【R元関連事業2-2-1,2,8】</p> <p>(ウ) 国際交流の推進については、引き続き、市民、関係団体などと連携・協働しながら、多くの国々の都市と多彩な交流を積極的に行うとともに、次代を担う国際性豊かな人材の育成に取り組んでいきたい。また、令和2年度に開設予定の国際交流センターを拠点として国際理解や多文化共生の地域づくり等を推進する取組を充実し、本市の国際交流をさらに推進していきたい。【R元関連事業3-1-1～6,3-2、H24・27関連事業2-1,2-2-1～2,2-3】</p>

## 5 関係局による分析

## 観光交流局（観光・コンベンションの振興、世界文化遺産やジオパーク等を活用したインバウンド観光の推進、スポーツ・ツーリズムの推進、グリーン・ツーリズムの推進）

分析	理由
施策の達成度  <b>A</b>	<p>(ア) 実感指標の「①「観光交流都市である」と感じる市民の割合」の30年度実績は目標を達成し、23年度策定時より25.0%上昇している。</p> <p>(イ) 観光・コンベンションの振興については、主な指標の「①宿泊観光客数」と「②外国人宿泊観光客数」が、台北線・香港線の定期空港路線の就航等に加え、明治維新150周年に関する取組など、観光未来戦略に基づく各種事業を着実に実施することにより、30年度目標を達成した。【関連事業1-1、1-2、1-3】</p> <p>(ウ) 世界文化遺産やジオパーク等を活用したインバウンド観光の推進については、世界文化遺産の構成資産周辺に案内所を整備し、受入環境の充実を図るとともに、ジオパーク国際ユネスコ会議等での国外ジオパークとのネットワークの構築や情報発信、桜島コンシェルジュセンターの本格運用の開始など、インバウンド観光に資する取組を推進し、主な指標の「②外国人宿泊観光客数」の30年度目標を達成した。【関連事業2-1、2-2】</p> <p>(エ) スポーツ・ツーリズムの推進については、主な指標の「③スポーツキャンプの受入数」の30年度目標達成率が90.0%であるが、鹿児島マラソンや全日本少年サッカー大会決勝大会等のスポーツイベントの開催、スポーツキャンプや合宿の受入により交流人口の拡大が図られた。また、ラグビー南アフリカチームの鹿児島キャンプ誘致に成功した。【関連事業4-1、4-2-1～5】</p> <p>(オ) グリーン・ツーリズムの推進については、主な指標の「④グリーン・ツーリズム登録団体数」が、農村地域における活動団体等の育成・支援や地域の魅力の情報発信など、第2期グリーン・ツーリズム推進計画に基づく各種施策を着実に実施することにより、30年度目標を達成した。【関連事業5-1、5-2、5-3】</p>

考え方	
今後の方向性	<p>(ア) 観光・コンベンションの振興については、鹿児島マラソンや天文館ミリオンネーションなど冬季における集客力のあるイベントを引き続き開催するほか、官民連携し、鹿児島市DMO戦略プランによる取組を進めるなど、第3期観光未来戦略に基づく基本戦略を推進することで、交流人口の拡大を図る。</p> <p>(イ) 世界文化遺産やジオパーク等を活用したインバウンド観光の推進については、世界文化遺産とジオパークの連携したツアー等の実施や情報発信を行うことで相乗効果を図るとともに、世界ジオパークを目指す取組を行っていく中で、世界に誇れる鹿児島の魅力に磨きをかける。</p> <p>(ウ) スポーツ・ツーリズムの推進については、新たなスポーツコンテンツの検討を行うとともに、幅広い世代がスポーツに関わる（「する」、「みる」、「支える」）きっかけづくりやプロスポーツチームの活用を促進する。</p> <p>(エ) グリーン・ツーリズムの推進については、観光農業公園などグリーン・ツーリズム施設等の活用による体験・交流メニューの充実や、体験・滞在型観光の促進等により、観光客等の都市部住民と農村地域との交流促進を図る。</p>

## 6 行政改革推進委員会における評価・意見

### 【施策の達成度についての評価】

#### I 観光・コンベンションの振興

主な指標①「宿泊観光客数」、②「外国人宿泊観光客数」とともに平成30年度目標を達成しており、所期の効果を発揮しているものと評価できる。この矢三の矢の戦略立案が可能になるよう、属性分析の一層の高度化に期待する。

#### II 世界文化遺産やジオパーク等を活用したインバウンド観光の推進

主な指標①「宿泊観光客数」、②「外国人宿泊観光客数」は、平成30年度目標を達成しており、一定の評価ができる。一方、持続可能なインバウンド観光を確立するには、来訪者のみならず市民においても機運の醸成や価値の維持・向上に向けた意識の醸成が必要であることから、今後、「受入体制の充実」の達成度計測においては、このような観点からの検討も必要である。

#### III 国際交流の推進

インバウンド観光客数が増加していることもあり、定性的にはフォローの風が吹いているように思われるが、逆に市民による「アウトバウンド」の国際交流がどの程度進捗しているか、あるいはその交流の深度が読み取りにくい。

一方で、姉妹友好都市との交流や鹿児島市国際交流財団との連携等が図られ、市民の国際交流意識は大きく向上している。

#### IV スポーツ・ツーリズムの推進

鹿児島マラソンや全日本少年サッカー大会等のスポーツイベントを積極的に開催するとともに、ラグビー南アフリカチームの鹿児島キャンプ誘致にも成功した事は大きな成果であり、各種スポーツイベント等を通じ交流人口が拡大している点は評価できる。

#### V グリーン・ツーリズムの推進

主な指標④「グリーンツーリズム登録団体数」は平成30年度目標を達成しているが、そもそもの目的である「交流促進(交流人口の増加)」が確実に連動し、所期の効果を発揮し得ているかどうかは、引き続き留意が必要である。

#### ・実感指標

「『観光交流都市である』と感じる市民の割合」や主な指標①「宿泊観光客数」や②「外国人宿泊観光客数」は順調に実績を伸ばしているが、当初目標にかかわらず更なる高みを目指すことが必要である。

### 【今後の方向性についての意見】

#### I 観光・コンベンションの振興

観光客数を追うだけでなく、観光の内容・質(滞在日数、消費単価等)も併せて向上を図ることが観光産業の基盤強化に繋がるため、市観光未来戦略の「稼ぐ観光の実現」には大きく期待する。そのため、このような観点からKPIを設定し、市民にとっての「見える化」と観光交流都市としての実感促進を図るべきである。

#### II 世界文化遺産やジオパーク等を活用したインバウンド観光の推進

世界に発信できる遺産であるとともに、観光資源であることを広く発信してほしいが、それぞれルート整備や広報、ごみ、連携その他の課題がある。また、インバウンドについても観光消費額を増加させる仕組みを検討する必要がある。

#### III 国際交流の推進

双方向性が肝要であり、鹿児島からのアウトバウンドにも配慮した施策展開が必要である。

また、市としては外国人職員を常駐させ、組織上も健闘しているが、まだまだ語学力・ガイド力ある人材・組織は、全国と比較すると十分でないため、改善策が必要である。

#### IV スポーツ・ツーリズムの推進

県・各団体等とも連携し、スポーツのまちとしても知られるように推進策の柱を立てるとともに、スポーツに留まらず、文化面も付加し、スポーツ・文化ツーリズムなどの検討もしてほしい。

#### V グリーン・ツーリズムの推進

各機関等とも連携し、魅力的な農林業等の体験メニュー構築や質の高い体験事業を実施するための人材育成、体験民宿等の運営体制の強化など、登録団体とともに常に、「実施内容の質的向上」を目指して、教育効果上の良さを市内外に浸透させてほしい。

# 施策評価シート

## 基本目標

3 人が行き交う 魅力とにぎわいあふれるまち

## 1 施策名

3-(2) 中心市街地の活性化

## 2 施策の概要

### I にぎわい創出と回遊性の向上

中心市街地の既存の社会資本等を活かしたにぎわい創出拠点の整備や都市空間の有効活用を推進し、都市機能のさらなる充実を図ります。また、新たな魅力として、市民が憩える都市の杜の創出を図るとともに、特色ある公共交通を生かし、来街しやすく気軽にまち歩きを楽しめる回遊性のあるまちづくりを推進します。

### II 都市型観光の振興

商業等が集積する中心市街地において、歴史や文化、自然、食、ショッピング、イベントなどを楽しめる個性ある都市型観光を展開し、国内外から多くの観光客が訪れる魅力多彩な活気あるまちづくりを推進します。

### III 商業・業務機能の集積促進

中心市街地の最大の魅力である商業機能や、多くの市民や観光客を受け入れ、そのニーズを十分に満たすためのサービス機能の充実を図るとともに、働く場として業務機能のさらなる集積等を図り、快適で楽しく過ごせる多面的な魅力とにぎわいあふれるまちづくりを推進します。

## 3 目標指標

### (1) 実感指標（市民意識アンケート調査）

指標名	総計策定時現況	30年度:実績(A)	30年度:目標(B)	達成率(A/B)	3年度:目標(C)	達成率(A/C)	所管局
①「中心市街地がにぎわっている」と感じる市民の割合	38.1%	42.7%	46.4%	92.0%	50.0%	85.4%	産業局

### (2) 主な指標

指標名	総計策定時現況	30年度:実績(A)	30年度:目標(B)	達成率(A/B)	3年度:目標(C)	達成率(A/C)	所管局
①中心市街地の歩行者通行量（30地点・土日）	161,137人/日	162,357人/日	165,082人/日	98.3%	171,000人/日	94.9%	産業局
②中心市街地の入込観光客数	7,185千人	8,587千人	8,036千人	106.9%	8,400千人	102.2%	産業局 観光交流局
③中心市街地の第三次産業従業者数	60,565人	※1 61,500人	※2 61,252人	100.4%	64,000人	96.1%	産業局

※1 29年度実績値 ※2 29年度目標値

## 4 施策を構成する事務事業の状況

構成する事務事業（単位：千円）	24年度		27年度		元年度	
	事業数	予算額	事業数	予算額	事業数	予算額
I にぎわい創出と回遊性の向上	10	90,732	14	1,370,380	15	6,669,394
II 都市型観光の振興	9	148,925	13	358,567	12	420,047
III 商業・業務機能の集積促進	8	669,547	8	663,189	13	809,283
計	27	909,204	35	2,392,136	40	7,898,724

5 関係局による分析

■分析の類型及び施策の達成度基準  
 A：十分に達成されている  
 実感指標のH30実績が総計策定時現況より上昇し、かつ、各指標のH30目標達成率が概ね90%以上  
 B：概ね達成されている  
 A以外で、各指標のH30目標達成率が概ね70%以上  
 C：あまり達成されていない  
 A、Bを除くもの

産業局（にぎわい創出と回遊性の向上、都市型観光の振興、商業・業務機能の集積促進）

分析	理由
施策の達成度  <b>A</b>	(ア) 実感指標の「『①中心市街地がにぎわっている』と感じる市民の割合」は42.7%であり、策定時より4.6ポイント増加している。
	(イ) にぎわい創出と回遊性の向上については、中心市街地の各地区において再開発事業などによる多様な都市機能の充実に向けた取組が進んでいるほか、各種イベント等の取組により、にぎわい創出、観光の魅力向上が図られ、一定割合の人がにぎわいは増していると感じる状況にあり、主な指標の「①中心商店街の歩行者通行量(30地点・土日)」は30年度の目標を概ね達成した。【R元関連事業1-1～3、H24・27関連事業1-1～4】
	(ウ) 都市型観光の振興については、薩摩維新ふるさと博をはじめ明治維新150周年の集大成として各種イベントに取り組んだほか、大河ドラマ「西郷どん」の放送に合わせ、設置・運営した大河ドラマ館では目標を上回る来場があり、主な指標の「②中心市街地の入込観光客数」は30年の目標を達成した。【R元関連事業2-1～2、H24・27関連事業2-1～2】
	(エ) 商業・業務機能の集積促進については、中央町19・20番街区市街地再開発事業及び東千石町12番街区整備事業の進捗が当初見込みよりも遅れたほか、街なか空き店舗活用事業の事業効果も見込みを下回ったものの、企業立地推進の効果や、新市立病院の移転開院、交通局局舎の移転、アミュプラザ鹿児島島の増床などによる事業効果があったことから、主な指標の「③中心市街地の第三次産業従業者数」は、29年度の目標を達成した。【R元関連事業3-1～2、H24・27関連事業3-1～2】

	考え方
今後の方向性	(ア) 第3期鹿児島市中心市街地活性化基本計画にある各事業の着実な推進を図るとともに、中心市街地活性化協議会や民間事業者とも連携しながら、新たな事業を計画に追加するなど、「観光・商業・交流による にぎわいあふれる次代のまちづくり」の実現に向けて、取組み強化を図る。
	(イ) 中央町19・20番街区市街地再開発事業や千日町1・4番街区市街地再開発事業などに引き続き取組むほか、街なかの魅力創出や気軽に移動できる環境づくりなど、歩行者通行量の増加に資する取組を今後も推進していく。【R元関連事業1-1～3、H24・27関連事業1-1～4】
	(ウ) 多彩な資源を活用し、観光の魅力創出に努め、各種施策を着実かつ積極的に推進し、観光客が中心市街地に訪問・滞在するための機能・取組を充実させる。【R元関連事業2-1～2、H24・27関連事業2-1～2】
	(エ) 中央町19・20番街区市街地再開発事業、千日町1・4番街区市街地再開発事業等に引き続き取組むほか、新規創業者の育成支援や企業立地の推進など、中心市街地の最大の魅力である商業機能や、多くの市民、観光客を受け入れ、もてなす飲食・宿泊業などのサービス機能の充実を図るとともに、働く場としての業務機能の集積を図る。【R元関連事業3-1～2、H24・27関連事業3-1～2】

観光交流局（都市型観光の振興）

分析	理由
施策の達成度  <b>A</b>	(ア) 都市型観光の振興については、台北線・香港線の定期空港路線の就航があったほか、鹿児島港のクルーズ船客数の増加を背景に、中心市街地では年間を通じて行われる多彩なイベントの開催や明治維新150周年に関する取組などにより、主な指標の「②中心市街地の入込観光客数」は30年の目標を達成した。【関連事業2-1～2】

	考え方
今後の方向性	(ア) 都市型観光の振興については、引き続きおはら祭や天文館ミリオネーション等を開催し、街なかイベントの充実に図るほか、官民連携し、鹿児島市DMO戦略プランによる取組を進めるなど、第3期観光未来戦略に基づく基本戦略を推進することで、中心市街地におけるさらなる交流人口の拡大を図る。

## 6 行政改革推進委員会における評価・意見

### 【施策の達成度についての評価】

#### I にぎわい創出と回遊性の向上

主な指標①「中心市街地の歩行者通行量(30地点・土日)」は、平成30年度目標は概ね達成されており、所期の効果を創出できているものと評価できる。

地区特性に応じたきめ細かい施策立案および市民の問題意識醸成のためにも、「中心市街地」と一括りにすることなく、エリア毎の指標測定と分析結果の開示が必要である。

#### II 都市型観光の振興

クルーズ船の寄航回数も増加し、明治維新150周年イベントをはじめ、多彩な事業に取り組み、主な指標②「中心市街地の入込観光客数」も平成30年度目標を達成している。

#### III 商業・業務機能の集積促進

主な指標③「中心市街地の第三次産業従業者数」は、平成30年度目標を達成しており、中央町、千日町の市街地再開発事業をはじめ、企業立地推進、市立病院移転、交通局移転等、商業・業務機能の集積促進に積極的に取り組んでいる。

#### ・実感指標

「『中心市街地がにぎわっている』と感じる市民の割合」は、当初から数値は上がっているが、当初目標にかかわらず更なる高みを目指す必要がある。

また、「中心市街地」については、各地区ごとに分析が必要である。

### 【今後の方向性についての意見】

#### I にぎわい創出と回遊性の向上

新たにできる施設等と民間企業の取組との連携等も模索し、回遊性の向上を図るなど、引き続き、施策の充実に期待する。

#### II 都市型観光の振興

明治維新150年や大河ドラマなどによる一過性の観光客数増に頼ることなく、リピーターを獲得し底上げに繋げることや国内外のニーズに応えるという意識を高め、盤石な振興策を考え続けてほしい。

また、海外の方々にわかりやすい標識・誘導装置の設置の推進や商業施設、一般飲食店での英語の認識率を徹底して上げてほしい。

#### III 商業・業務機能の集積促進

多様で魅力的な市街地形成に向け、今現在手薄な文化発信、教育機能などの業務機能の充実も併せて検討するとともに、商業・業務機能が《ハード面》や、《モノ》の集積だけでなく、《コト》、《アクション》のネットワーク機能が発揮されるような「集積」を実現してほしい。

# 施策評価シート

## 基本目標

3 人が行き交う 魅力とにぎわいあふれるまち

## 1 施策名

3-(3) 地域産業の振興

## 2 施策の概要

- I 商業・サービス業の活性化  
事業革新や産業間の連携等を促進するとともに、経営基盤の強化及び人材の育成に努め、地域の特性やニーズに対応した商業・サービス業の活性化を図ります。
- II 工業・地場産業の活性化  
地域資源を生かしたものづくりや製品の高付加価値化への支援、国内外への販路拡大を図るとともに、新産業の創出や新規創業者等の育成支援、企業立地の推進により、工業・地場産業の活性化を図ります。
- III 貿易・流通の振興  
貿易・流通関連基盤の機能強化や整備促進を図るほか、企業の海外取引に対する支援や情報提供の充実等により貿易・流通の振興に努めます。
- IV 雇用環境の充実  
企業立地の推進や創業支援等を通じて雇用の場を創出するとともに、職業能力の開発や企業との適切なマッチング等により人材の育成・確保を図ります。また、ワーク・ライフ・バランスの推進による働きやすい職場づくりなどにより、若者や女性等の就労を促進します。

## 3 目標指標

### (1) 実感指標（市民意識アンケート調査）

指標名	総計策定時現況	30年度:実績(A)	30年度:目標(B)	達成率(A/B)	3年度:目標(C)	達成率(A/C)	所管局
①「産業振興が図られ雇用機会に恵まれるなど、地域経済が活性化している」と感じる市民の割合	8.5%	21.2%	37.6%	56.4%	50.0%	42.4%	産業局

### (2) 主な指標

指標名	総計策定時現況	30年度:実績(A)	30年度:目標(B)	達成率(A/B)	3年度:目標(C)	達成率(A/C)	所管局
①卸売業・小売業年間商品販売額	25,365億円	※ <sup>1</sup> 26,050億円	※ <sup>2</sup> 25,383億円	102.6%	25,400億円	102.6%	産業局
②製造品出荷額等(従業者4人以上)	3,784億円	※ <sup>3</sup> 3,625億円	※ <sup>4</sup> 3,914億円	92.6%	4,000億円	90.6%	産業局
③事業所数(民営)[農林漁業除く]	29,057事業所	※ <sup>1</sup> 27,197事業所	※ <sup>2</sup> 29,529事業所	92.1%	30,000事業所	90.7%	産業局

※1 28年度実績値 ※2 28年度目標値

※3 29年度実績値 ※4 29年度目標値

## 4 施策を構成する事務事業の状況

構成する事務事業(単位:千円)	24年度		27年度		元年度	
	事業数	予算額	事業数	予算額	事業数	予算額
I 商業・サービス業の活性化	21	598,268	23	516,883	23	655,322
II 工業・地場産業の活性化	15	724,249	21	734,354	26	742,729
III 貿易・流通の振興	14	411,913	11	2,415,020	12	2,442,142
IV 雇用環境の充実	18	465,703	18	386,926	25	361,989
計	68	2,200,133	73	4,053,183	86	4,202,182



5 関係局による分析

■分析の類型及び施策の達成度基準

- A：十分に達成されている  
実感指標のH30実績が総計策定時現況より上昇し、かつ、各指標のH30目標達成率が概ね90%以上
- B：概ね達成されている  
A以外で、各指標のH30目標達成率が概ね70%以上
- C：あまり達成されていない  
A、Bを除くもの

産業局（商業・サービス業の活性化、工業・地場産業の活性化、貿易・流通の振興、雇用環境の充実）

	分析	理由
施策の達成度	B	<p>(ア) 実感指標の「①「産業振興が図られ雇用機会に恵まれる等、地域経済が活性化している」と感じる市民の割合」は、平成23年度実績より上昇しているものの、30年度目標を下回った。</p> <p>(イ) 商業、サービス業の活性化については、クリエイティブ産業の育成支援と集積促進のため、インキュベーション施設の充実やクリエイティブ関連事業の開催に取り組むとともに、地域経済の担い手として重要な役割を担っている商店街等の活性化のための各種施策を実施しており、主な指標である「①卸売業・小売業年間商品販売額」は、30年度目標を達成した。【R元、H24・27関連事業1-1～2】</p> <p>(ウ) 工業、地場産業の活性化については、新たな事業展開や創業への支援、首都圏からのクリエイティブ人材や企業の誘致等に取り組む、実績は概ね順調に推移している。 また、中小企業の経営力の強化や販路拡大を推進する取組に対する助成等、各種施策の実施により一定の効果を上げているものの、主な指標である「②製造品出荷額等」は30年度目標に達していない。【R元、H24・27関連事業2-1～3】</p> <p>(エ) 貿易・流通の振興については、中小企業者の海外での合同展示会への出展等に対する助成等、販路拡大の促進を図っている。また、中央卸売市場については、青果市場の施設整備が平成30年度に完了し、魚類市場の施設整備は、新市場棟(1工区)が平成30年度に竣工し、2期工事に着手している。このほか、両市場の活性化、魚食普及拡大の取組みとともに、魚類市場では輸出促進に向け、輸出拠点構築推進計画を策定した。【R元、H24・27関連事業3-1～2】</p> <p>(オ) 雇用環境の充実については、雇用の場の創出のため、創業支援や企業の誘致等に取り組むとともに、若者や女性、高齢者等の就労促進を図っており、鹿児島公共職業安定所管内の有効求人倍率が1倍を超えるなど、雇用情勢は堅調に推移している。【R元、H24・27関連事業4-1～2】</p> <p>(カ) 関係機関とも連携しながら事業者への支援や創業の促進を図っているものの、主な指標である「③事業所数」は減少している。これは、全国・県においても同様の状況にあり、市内で大半を占める小規模の事業所の減少等が影響している。【R元、H24・27関連事業1、2、3、4】</p>

	考え方
今後の方向性	<p>(ア) 商業、サービス業の活性化については、引き続きクリエイティブ産業の育成支援とともに、人材の育成や融資制度の拡充など、経営基盤の強化等を通じて、商業・サービス業の振興を図っていく。【R元関連事業1-1～2】</p> <p>(イ) 工業、地場産業の活性化については、「環境」「健康」などの成長分野関連の新産業創出や起業を志す人材の育成・支援等に産学官で連携しながら取り組むとともに、市外企業の立地や市内企業の増設、販路拡大への支援等を進めていく。 また、支援制度利用後のフォローの強化などを行い、より中小企業のニーズに合った支援が行えるよう、制度の拡充を図っていく。【R元関連事業2-1～3】</p> <p>(ウ) 貿易・流通の振興については、アジアへの近接性等の特性を活かし、今後も関係機関と連携しながら、中小企業者の海外での販路拡大に向けた取組を支援していく。 また、中央卸売市場の活性化を図るため、市場関係者と各種施策に取り組むとともに、魚類市場においては、市場棟(2工区)の整備を進めるほか、輸出拠点構築推進計画に基づき、輸出促進に向けた取組を行う。【R元関連事業3-1～2】</p> <p>(エ) 雇用環境の充実については、本市の雇用環境の充実のため、市外企業の立地や市内企業の増設への支援等を進めるとともに、若者の地元就職や女性、高齢者、障害者等の就労促進を図っていく。 また、働きやすい職場づくりや事業所の人材育成・確保の支援を行っていく。【R元関連事業4-1～2】</p>

## 6 行政改革推進委員会における評価・意見

### 【施策の達成度についての評価】

#### I 商業・サービス業の活性化

事業所数が減少しているなかで、主な指標①「卸売業・小売業年間商品販売額」が平成30年度目標を達成している点は評価できる。

#### II 工業・地場産業の活性化

中小企業の経営力強化や販路拡大の支援・助成、創業支援やマークメイザン等施設整備、クリエイティブ人材・企業の誘致など、意欲的な試みも見られるが、主な指標②「製造品出荷額等(従業者4人以上)」が平成30年度目標を達成しておらず、かつ総計策定時よりも減少していることから、具体的施策の不断の見直しが必要である。

#### III 貿易・流通の振興

海外への販路拡大促進や新市場整備等の第一次産業の振興に繋がる施策がなされている点は評価できる。

#### IV 雇用環境の充実

有効求人倍率が高く、新たに中学生まで参加対象とするイベントを実施することなどは良いが、高校生・大学生の地元定着意識の低さは大きな課題である。

#### ・実感指標

「『産業振興が図られ雇用機会に恵まれるなど、地域経済が活性化している』と感じる市民の割合」は、策定時の数値は非常に低く、またその後も伸び悩んでいるため、実質的には危機的状況であるとの意識を持って施策を実施する必要がある。

### 【今後の方向性についての意見】

#### I 商業・サービス業の活性化

産業構造の転換に向けてクリエイティブ産業育成に注力する点に違和感はないが、より具体的な施策への反映と、市民に対するその趣旨と定義についてわかりやすい周知が必要である。

また、日常的に行政と事業者との意見交換やコミュニケーションを心がけるべきである。

#### II 工業・地場産業の活性化

事業所・担当者・研修講師等との連携を密にして、新たな方策を積極的に取り入れ、各事業所・現場等の現状を確実に把握し、既存産業の維持のみならず、環境変化に即した付加価値性の高い産業創出を図ることで、産業構造自体を改善していくことが重要である。

#### III 貿易・流通の振興

貿易分野の販路拡大については、展示会参加にとどまらず、その後の交渉・連絡・物流確保・与信管理など、多岐に渡る業務が発生することから、それぞれを意識したサポート体制が必要である。

そのためにも事業者との日ごろからの意見交換はとても大事である。

#### IV 雇用環境の充実

良質な雇用機会創出が求められる一方で、供給面では生産年齢人口減少に伴う人手不足問題がより一層深刻化する可能性があることから、女性、高齢者、障害者等の就労促進といったダイバーシティ確保は勿論のこと、業種によっては中長期を見据えた省力化の取組を支援・促進するような施策パッケージを検討する余地がある。

# 施策評価シート

## 基本目標

### 3 人が行き交う 魅力とにぎわいあふれるまち

## 1 施策名

### 3-(4) 農林水産業の振興

## 2 施策の概要

### I 活力ある農業・農村の振興

農家や関係機関と連携し、優良農地の保全や遊休農地の解消、新規就農者など農業担い手の確保・育成、降灰等の災害対策などに取り組み、都市型農業や地域の特性を生かした農業の振興に努めるとともに、黒牛・黒豚の資質改善を進めます。また、安全安心かつ新鮮で良質な市内産農畜産物の市民への提供に努めるほか、食の新たな魅力づくりなど、農業の6次産業化への支援も行う中で、活力ある農業・農村の振興を図ります。

### II 多様な機能を持つ森林の育成

木材生産のほか、温暖化防止など多様な機能を持つ森林の保全を図るため、森林整備や林内道路などの生産基盤の整備を進め、あわせて「森林づくり」に対する市民の意識の醸成を図ります。

### III 豊かな漁場造成と生産基盤の充実

マダイやヒラメ等の稚魚放流や魚礁の設置による、つくり育てる漁業を推進するとともに、漁港や海づり公園の維持、管理や漁業施設の充実を図ります。

## 3 目標指標

### (1) 実感指標（市民意識アンケート調査）

指標名	総計策定時現況	30年度:実績(A)	30年度:目標(B)	達成率(A/B)	3年度:目標(C)	達成率(A/C)	所管局
①「農林水産業の振興が図られている」と感じる市民の割合	37.5%	59.5%	53.3%	111.6%	60.0%	99.2%	産業局

### (2) 主な指標

指標名	総計策定時現況	30年度:実績(A)	30年度:目標(B)	達成率(A/B)	3年度:目標(C)	達成率(A/C)	所管局
①買い物時に地元の農林水産物を選ぶ市民の割合	71.4%	72.4%	78.8%	91.9%	82.0%	88.3%	産業局
②認定農業者数	175人	171人	189人	90.5%	195人	87.7%	産業局
③認定農業者の農業所得	435万円	337万円	481万円	70.1%	500万円	67.4%	産業局
④遊休農地解消面積	9ha	37ha	48ha	77.1%	65ha	56.9%	産業局

## 4 施策を構成する事務事業の状況

構成する事務事業（単位：千円）	24年度		27年度		元年度	
	事業数	予算額	事業数	予算額	事業数	予算額
I 活力ある農業・農村の振興	43	1,061,909	42	833,843	35	1,058,101
II 多様な機能を持つ森林の育成	10	170,616	10	163,944	10	72,179
III 豊かな漁場造成と生産基盤の充実	6	56,707	8	95,765	9	146,841
計	59	1,289,232	60	1,093,552	54	1,277,121

5 関係局による分析

■分析の類型及び施策の達成度基準

- A：十分に達成されている  
実感指標のH30実績が総計策定時現況より上昇し、かつ、各指標のH30目標達成率が概ね90%以上
- B：概ね達成されている  
A以外で、各指標のH30目標達成率が概ね70%以上
- C：あまり達成されていない  
A、Bを除くもの

産業局（活力ある農業・農村の振興、多様な機能を持つ森林の育成、豊かな漁場造成と生産基盤の充実）

分析	理由
B 施策の達成度	(ア) 実感指標の「①「農林水産業の振興が図られている」と感じる市民の割合」は、増加し目標値も超えている。主な指標の「①買い物時に地元の農林水産物を選ぶ市民の割合」は、目標値に届いていないものの、増加している。
	(イ) 都市型農業の振興のためのビニールハウス等園芸施設の整備、鳥獣による農作物被害の防止対策に係る電気柵等の設置などへの支援により、経営の安定を図った。 また、黒牛・黒豚等資質改善事業、受精卵移植事業等により、資質の改善を図った。【R元、H24・27関連事業1-1】
	(ウ) 6次産業化においては、加工技術習得のための先進地研修や加工品の開発に支援を行い、新商品開発につながった。【R元、H24・27関連事業1-1】
	(エ) 技術の習得や施設整備等への支援、農業次世代人材投資資金等の活用により、新規就農者の確保・育成を図るとともに、認定農業者への誘導や経営能力向上に向けた指導などに取り組んできたが、主な指標の「②認定農業者数」及び「③認定農業者の農業所得」は、平成30年度目標に達していない。【R元、H24・27関連事業1-2】
	(オ) 遊休農地においては、29年度に「遊休農地活用指針」や「対策マニュアル」を策定し、遊休農地解消面積の目標を10ha/年度と定め、30年度は、発生防止や再生利用への支援などにより、約12.4haの解消に取り組んできたが、主な指標である「④遊休農地解消面積」(累積)の30年度目標に達していない。【R元関連事業1-3、H24・27関連事業1-2】
	(カ) 林業においては、国等の事業を活用し、間伐作業等の集約化を進め、作業の効率化や計画的な搬出間伐につながった。【R元、H24・27関連事業2】
	(キ) 水産業においては、魚礁設置による漁場整備やマダイ・ヒラメ放流による水産資源の確保・育成に努め、漁獲量の維持に努めた。【R元、H24・27関連事業3】

今後の方向性	考え方
今後の方向性	(ア) 園芸施設の整備により軟弱野菜など生産性の高い集約的な都市型農業の推進、各地域の特産農産物の生産振興に努めるとともに、桜島の降灰や鳥獣による農作物被害を防止するための対策を講じ、農業経営の安定に努める。また、各種イベント等を通じて本市の安全安心かつ新鮮な農林水産物のPRを行い、消費拡大に努める。【R元関連事業1-1】
	(イ) 畜産においては、優良家畜の確保による資質と施設等整備による自給飼料の生産性の向上に取り組むとともに、家畜伝染病に対する防疫対策を講じ、畜産経営の安定に努める。【R元関連事業1-1】
	(ウ) 6次産業化においては、農産加工グループ等を中心に、人材育成のための研修会の開催や販路拡大への取り組みなどの支援に努める。【R元関連事業1-1】
	(エ) 農業次世代人材投資資金など支援制度のさらなる活用や就農段階に応じた支援策を講じるなど、引き続き、新規就農者、認定農業者の確保・育成に努めるとともに、認定農業者が、効率的かつ安定的な農業経営へ発展するよう、規模拡大や経営能力向上を図るための研修や経営指導などの支援に努める。【R元関連事業1-2】
	(オ) 農業委員会と連携し、遊休農地情報の共有化や農地流動化対策を推進するほか、地域での話し合い活動を進め、生産基盤の整備や担い手への農地集積を図るなど、遊休農地の発生防止及び解消(解消面積：10ha/年度)に努める。【R元関連事業1-3】
(カ) 林業においては、計画的な間伐の促進により、木材生産や公益的機能を高度に発揮する森林の造成や、森林経営管理制度の推進に努める。【R元関連事業2】	
(キ) 水産業においては、計画的な魚礁設置による漁場整備や種苗放流を支援するとともに、漁港整備など生産基盤の整備を図る。【R元関連事業3】	

## 6 行政改革推進委員会における評価・意見

### 【施策の達成度についての評価】

#### I 活力ある農業・農村の振興

消費者に対する生産者情報の提供や、6次産業化の取組等が市民に浸透したことで、実感指標および主な指標①「買い物時に地元の農林水産物を選ぶ市民の割合」が順調に推移していると思われ、所期の効果を達成しているものと評価できる。

他方で、主な指標②「認定農業者数」、③「認定農業者の農業所得」が策定時よりも減少していること、④「遊休農地解消面積」が平成30年度目標を未達成など、進捗改善に向け施策等検討すべきである。

#### II 多様な機能を持つ森林の育成

目標指標の設定がなく、林業の印象も薄いのが、国等の事業を活用し、間伐作業等の集約化を進め、作業の効率化や計画的間伐などが行われたとの点は評価できる。

#### III 豊かな漁場造成と生産基盤の充実

海洋環境の変化による漁獲量の変動、漁獲種の変化が大きく、マダイ・ヒラメ等の放流による水産資源の安定確保は大変重要な施策であることから、充実が図られた点は評価できる。

#### ・実感指標

「『農林水産業の振興が図られている』と感じる市民の割合」が平成30年度目標を十分達成しており、鹿児島県内では都市圏にあたる鹿児島市であっても、農林水産業の振興のイメージが高いことは、特筆すべき鹿児島市の強みである。

### 【今後の方向性についての意見】

#### I 活力ある農業・農村の振興

農業従事者の高齢化スピードを考えると抜本的改善は難しいが、まずは新規就農者増加、営農規模の拡大を着実に進めるとともに、小規模農家を含め、後継者不足や人手不足を補完するIT等の技術面、経営支援面に力を入れてほしい。

また、所得向上に向け、「新たな付加価値」を農産品に付与する生産物のブランド化や販路拡大については県をはじめとする関係諸機関と密な連携をとる必要がある。

#### II 多様な機能を持つ森林の育成

教育現場を通じ、森林の必要性の教育を義務教育の早い時期から始めるとともに、施策の趣旨、狙いについて、一層の情報提供と周知活動を行ってほしい。

#### III 豊かな漁場造成と生産基盤の充実

地場産である事に加えて、消費者に訴える新たな付加価値を地元水産物に付与する支援施策の実施を望むとともに、取り組む施策の趣旨、狙いについての一層の情報提供と周知活動を行ってほしい。